

## ビトロス®XT7600 による夜間・休日検査の業務効率化に向けた検討

◎石関 治<sup>1)</sup>、薄井 晃平<sup>1)</sup>、佐藤 佑哉<sup>1)</sup>、大山 健斗<sup>1)</sup>、福田 嘉明<sup>1)</sup>、相馬 史<sup>1)</sup>、西山 宏幸<sup>1)</sup>、中山 智祥<sup>2)</sup>  
日本大学医学部附属板橋病院臨床検査部<sup>1)</sup>、日本大学医学部附属板橋病院臨床検査部、日本大学医学部病態病理学系臨床検査医学分野<sup>2)</sup>

【はじめに】当院では生化学・免疫検査など多くの臨床検査項目を夜間や休日にも行っている。しかし、複数の臨床検査機器を用いることから、検体の分注や別フロアへの搬送に時間を要し、長い検体動線が Turn around time（以下：TAT）の遅延につながっている。その点、オーソ・クリニカル・ダイアグノスティクス社のビトロス®XT7600（以下：XT7600）は生化学的検査と免疫学的検査を統合したドライケミストリー法及びCLEIA法にて測定するため対応可能な検査項目が多く、検査機器の集約が可能でTATの改善が期待できる。今回、XT7600を用いたときの夜間・休日検査のシミュレーションを行い、現状と比較することで、その有用性を検討したので報告する。

【機器】検討機器：XT7600 対象機器：ディメンションEXL200(シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社)、ルミパルス L2400(富士レビオ株式会社)、ミュータス Wakoi50 (富士フィルム和光純薬株式会社)、STACIA (株式会社 LSI メディエンス)

【方法】過去3か月間における検体受付から検査結果報告

までの時間を抽出した。その中の1日にフォーカスを当て、XT7600を用いた際のTATシミュレーションを実施し、現状との比較検証を行った。また、XT7600は検体受付から搭載するまでの時間を15分と仮定し、TAT時間を求めた。

【結果】検体受付から結果報告までの平均時間はミュータス Wakoi50で30分、ディメンションEXL200で32分、STACIAで37分、ルミパルスL2400で59分であり、動線の悪さがTAT時間に反映された。XT7600では21分～36分と多くの検査項目でTAT時間が短縮された。

【まとめ】XT7600はドライケミストリー法を採用することで検査準備やメンテナンスが簡便となり、臨床検査技師への負担が軽減される。また、検査可能な項目数も多く、検査機器の集約により業務効率化や誤操作リスクの低減と、動線の簡素化によるTATの短縮が可能となる極めて実用性が高い機器であった。更に本機器はウォーターレスであるため災害時の医療を支えるうえでも有用であり、臨床に大きく貢献できる検査機器であると考えられた。連絡先 03-3972-8111 (内線 8850)